Press Release　　2022 年 2 月 22 日

報道機関各位

武庫川女子大学
Mukogawa Women's University

学生のアイデアから生まれた木のモビール
丹波市のプレゼント事業で製品化へ

兵庫県丹波市が木材資源の活用と、子どもたちの健全な育成を目指して取り組む「ハッピーバース応援ギフト事業」で、武庫川女子大学生活環境学科 3 年、真弓千優さんが考案した木のモビール「grow up mobile」が製品化されることが決まりました。4 月からカタログに掲載され、新たに生まれる子どもたちのもとに届きます。

市域の 75%を森林が占める丹波市は、丹波産の木材の魅力と山林保全の重要性を次世代に伝えようと、「木育」に力を入れています。「丹波市ハッピーバース応援ギフト事業」は、その年に市内で生まれた新生児を対象に、木育製品をプレゼントしようと 2021 年度から始まりました。

プレゼントは木のボックスチェアや積み木など。無垢材を使って一点ずつ手作りした製品はクオリティが高く、丹波産の木材の PR につながると期待されます。丹波市は「魅力的な製品を創出し、市のブランドイメージを高めたい」として、武庫川女子大学生活環境学科にカタログ制作などで協力を依頼。さらに、「フィールドデザイン演習Ⅲ」の授業で学生 14 人が同事業の活性化に向けた課題解決に取り組みました。

木のモビールのアイデアはこの授業から生まれました。モビールとしてベビーベッドの上に吊るすだけでなく、オーナメントを取り外して積み木として遊ぶこともできます。また、「愛着を持って長く使い続けられるように」と、一つ一つのオーナメントはハンコ入れやキーホルダー、アロマポットなどに転用できるようにして、成長してもインテリアや雑貨として使い続けることができるよう、工夫しています。授業終了後も、真弓さんが所属する住環境・地域デザイン研究室（鎌田誠史准教授）を中心に、学生たちが安全性やコストも含め、丹波市と話し合いを続けました。

2 月、箱に入った完成品が研究室に届きました。「このプレゼントを受け受け取った子どもたちが地元産の木を身近に感じながら成長してくれたらうれしい」と真弓さん。

パッケージやカタログのデザインも学生たちが考えます。「多様な用途」を意識してもらえるよう、オーナメントと本体は分かれた状態で届け、オーナメントの用途を記したパンフレットも同封する予定です。

この取り組みは「丹波市の木育地域コミュニティ形成に関する産官学連携事業」として 2025 年大阪万博「共創チャレンジ」に参画しています。

この件についてのお問い合わせは、武庫川女子大学広報室
TEL：0798-45-3533
メール：kohos@mukogawa-u.ac.jp
までよろしくお願いします。

動物などを形どった人形が揺れるモビール

木のモビールを考案した真弓さん